

為替週間展望 = ドル円は高値圏で振幅しながら上値を追う展開か

[4月18日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		4月11日～4月15日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	124.18	126.68(15)	124.01(11)	126.62	+2.28
ユーロ・ドル	1.0923	1.0954(11)	1.0758(14)	1.0806	-0.0071

=====

国内株・金利 / 米国株・金利		終値 前週末比		終値 前週末比	
日経平均株価	27,093.19	+107.39	日本10年債利回り	0.241	+0.011
ダウ平均株価	34,451.23	-269.89	米10年債利回り	2.828	+0.128

=====

<来週の主要経済統計等>

- 18日 中国第1四半期国内総生産 (GDP)
中国3月鉱工業生産指数、中国3月小売売上高
国際通貨基金 (IMF)・世界銀行の春季会合 (24日まで)
- 19日 日本2月鉱工業生産指数
米3月住宅着工・許可件数
世界経済見通し (IMF)
- 20日 日本3月貿易収支
独3月生産者物価指数
ユーロ圏2月鉱工業生産指数、ユーロ圏2月貿易収支
カナダ3月消費者物価指数
米3月中古住宅販売件数
20カ国・地域 (G20) 財務相・中央銀行総裁会議 (ワシントン)
- 21日 NZ第1四半期消費者物価
ユーロ圏3月消費者物価指数確報値
米4月フィラデルフィア連銀景況指数、米新規失業保険申請件数
米3月景気先行指数
IMF主催パネル討論会 (パウエルFRB議長、ラガルドECB総裁)
- 22日 日本3月消費者物価指数
英3月小売売上高
ユーロ圏2月経常収支
ユーロ圏4月製造業PMI速報値、ユーロ圏4月非製造業PMI速報値
英4月製造業PMI速報値、英4月非製造業PMI速報値
カナダ2月小売売上高、カナダ3月鉱工業製品価格
米4月製造業PMI速報値、米4月サービス業PMI速報値

【前回のレビュー】米国での金融引き締めが加速するとみられる中、米10年債利回りは7日に2.67%前後まで上昇して、ドル円は8日に一時124円台前半まで上昇した。ドルの底堅い動きが見込まれる中、高値圏で調整の動きをこなしながら、ドル円は上値を追う展開が続くとした。

【米国でのインフレ率の高止まりは続く】

12日に発表された3月の米消費者物価指数は前年比+8.5%となり、約40年ぶりの高い伸びとなった。事前予想の+8.4%や前回の+7.9%を上回った。原油価格の高騰によるガソリン価格の上昇などが背景にある。変動が大きい食品とエネルギーを除いたコア指数は+6.5%となり、事前予想の+6.6%を下回った。

コアの前月比は+0.3%となり、事前予想や前回の+0.5%を下回ったことで、市場の一部では米国の物価上昇率はピークアウトが近づいているとの見方も出ている。もっとも水準は高水準を維持しており、米連邦準備制度理事会（FRB）による金融引き締めは動くスタンスに変化はないとみられる。

13日に日銀の黒田総裁は、「現在の強力な金融緩和を粘り強く続ける」と緩和策を継続する姿勢を示したことで、円が売られてドル円は上昇に転じた。この発言を受けてドル円は125円台半ば付近でもみ合いから一気に126円を突破して、126円台前半まで上昇した。

13日にはカナダ中銀は13日に政策金利を0.50%引き上げて1.00%とした。また、国債の再投資を停止してバランスシートの縮小に動くことも明らかにした。これで利上げは2会合連続となる。0.50%の大幅な利上げは2000年5月以来、約22年ぶりとなる。カナダの3月の消費者物価指数は前年比+5.7%となり、前回の+5.1%を上回り、インフレの高進が続いている。また、NZ準備銀行（RBNZ）は13日に政策金利を0.50%引き上げ、1.50%とした。市場予想の0.25%の利上げを上回る0.50%の大幅な利上げとなった。利上げは4会合連続となる。

CME FEDウォッチによると、5月3～4日の米連邦公開市場委員会（FOMC）での0.50%の利上げ確率は90%前後に達している。5月のFOMCでの0.50%の利上げはほぼ確実とみられる。6月14～15日のFOMCでの0.50%の利上げ確率は70%近くに上昇している。

14日にニューヨーク連銀のウィリアムズ総裁が、「5月の0.50%利上げ予測を支持する」「高いインフレ率と経済の強さを考慮すれば妥当な選択肢だ」と述べた。ドル円は一時126円台に上昇した。その後の東京市場でも堅調な動きを見せて、126円台半ばまで上昇した。

主要国が利上げや金融引き締めは動く中、日銀は緩和策の継続を表明しており、各国との金融政策のスタンスの違いが明確になっている。こうした状況から、円は売られやすい通貨として意識されている。ドル円はテクニカル面の過熱感を除くと目立った売り圧力はなく、底堅い動きが継続するとみられる。ドル円は最近の高値圏での振幅を見せながらも一段と上値を迫る可能性が高いとみられる。ドル円の目先の予想レンジは、124.00～127.50円。

なお、21日の国際通貨基金（IMF）のパネル討論会に米連邦準備制度理事会（FRB）のパウエル議長と欧州中央銀行（ECB）のラガルド総裁が参加する。市場を動かすような発言が出てくるかが注目される。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、19日に日本2月鉱工業生産指数、米3月住宅着工・許可件数、20日に日本3月貿易収支、米3月中古住宅販売件数、21日に米4月フィラデルフィア連銀景況指数、米新規失業保険申請件数、米3月景気先行指数、IMF主催パネル討論会（パウエルFRB議長、ラガルドECB総裁参加）、22日に日本3月消費者物価指数、米4月製造業PMI速報値、米4月サービス業PMI速報値などがある。

【ユーロドルは上値の重い動きが継続か】

14日の欧州中央銀行（ECB）理事会では、政策金利は据え置きとなった。ECBは声明で「資産購入プログラム（APP）は第3四半期に終了する見通しを強めた」「APPの終了の時期は次回6月の理事会で判断する」としている。また、「政策金利の調整は資産購入終了後にしばらくしてから、緩やかに実施する」としている。理事会後の記者会見でラガルド総裁は、「利上げのタイミングは量的緩和策の終了後、1週間から数か月後」と述べた。

ECBは市場の想定ほど金融正常化に前向きではないとの見方も広がり、ユーロドルは上値の重い動きとなっている。ユーロ圏ではウクライナ戦争の景気への悪影響も警戒されている。FRBに比べてECBの金融正常化への動きが相対的に緩やかとみられ、

ユーロドルは上値の重い動きが継続しそうだ。ユーロドルの目先の予想レンジは、1.0600～1.0950ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、18日に中国第1四半期国内総生産（GDP）、中国3月鉱工業生産指数、中国3月小売売上高、20日に独3月生産者物価指数、ユーロ圏2月鉱工業生産指数、ユーロ圏2月貿易収支、カナダ3月消費者物価指数、21日にNZ第1四半期消費者物価、ユーロ圏3月消費者物価指数確報値、22日に英3月小売売上高、ユーロ圏2月経常収支、ユーロ圏4月製造業PMI速報値、ユーロ圏4月非製造業PMI速報値、英4月製造業PMI速報値、英4月非製造業PMI速報値、カナダ2月小売売上高、カナダ3月鉱工業製品価格などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。